文部科学省
地(知)の拠点

平成28年度　文部科学省　地(知)の拠点整備事業支援プロジェクト

ニセコ地域における
【夏季】観光客の動態調査2016

報告書

平成29年3月

小樽商科大学
地（知）の拠点整備事業

「ニセコ観光局プロジェクト協議会との連携による
長期滞在型観光に関する調査・研究」

研究代表：プラート　カロラス

目　次

１　本調査の目的　---------- 1

２　アンケート調査概要　---------- 2

３　アンケート調査結果　---------- 3

３．１　回答者の属性　---------- 3

３．２　観光動態　---------- 7

４　ヒアリング調査　---------- 18

５　まとめ　---------- 20

６　参考資料　---------- 21

1 本調査の目的

本調査は、ニセコ観光圏の認定を受け、今後、国際的なリゾート地へ向けてブランド力の向上を図っていく必要があるニセコ地域において、観光に関する基礎的調査研究を実施し、インバウンドの増加と滞在期間の延長に寄与することを目指すものである。今年度は具体的な取組みとして、夏季における観光客の動態と平成２８年３月２６日に開通した北海道新幹線の影響を調査した。調査は、調査票を用い、調査員（学生）が聞き取り記入する方式で実施した。なお、今回の調査では前回調査（平成２６年調査）との比較も行った。本報告書は、そのアンケートおよびヒアリング調査の結果をまとめたものである。本報告書が、観光振興に携わる方々の参考になり、観光客誘致の一助になれば幸いである。

2 アンケート調査概要

■調査対象
・ニセコ地域を訪問した「観光客」

■調査地域
・ニセコビュープラザ（道の駅）、高橋牧場、ヒラフ坂、ＮＡＣ

■調査方法
・個別面談方式：調査員が聞き取り、調査票に記入

■調査時期
・平成２８年８月２７日～２８日（２日間）

■有効回答数
・２１４サンプル

■分析方法
・単純集計：データを集計し分析
・クロス分析：データの組み合わせにより分析
「道外・海外」「長期滞在者（５泊以上）」「リタイア世代（６０歳以上）」３つのセグメントとの組み合わせにより分析を行った。

3 アンケート調査結果

3.1 回答者の属性

（1）居住地域

「道内客が７割、道外客が３割。道内客の４割は札幌、道外客の６割は関東からとなっている」

回答者の居住地は、71.0%が道内、道外が28.5%、海外が0.5%であった。

道外客の居住地で最も多いのは「関東」で、道外客の60.7%を占めている。次いで「近畿」が23.1%、「中部」が11.4%となっており、道外客の約９割は大都市圏から訪れている。この傾向は前回（H26年調査時）の調査結果と変わらなかったが、道内居住者の割合が前回の55.8%から71.0%へ増加している。これは、前回調査時に行ったコンドミニアムやイベントでの調査（道外の長期滞在者が主に利用）を今回は実施していないことが理由として考えられる。道内客をみると、札幌が41.6%、函館5.0%、小樽4.5%、室蘭3.0%の順になっており、道内客のおおよそ半数は道央圏から訪れている。前回調査時と比べ、札幌居住者の割合が減っている。また、今回の調査では、道内の居住地を訪ねる質問項目にその他を含めたため、道央圏以外のサンプル数・比率が計上されている。なお、今回の調査では海外居住者の回答は１サンプルのみであった。

図1 回答者の居住地（全体） n:210

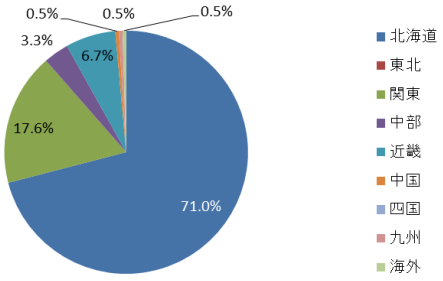


図2 回答者の居住地（道内） n:202

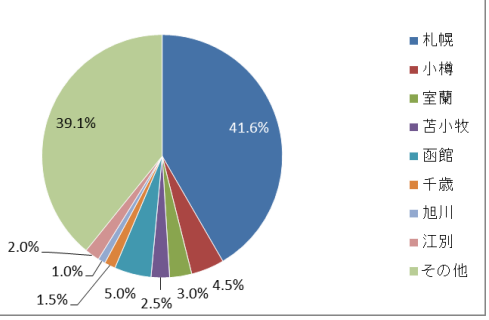


表1 居住地域

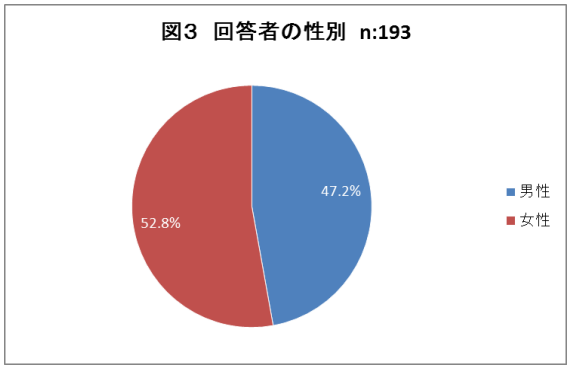
回答者居住地(全体)		実数		比率	
		H26	H28	H26	H28
1	北海道	320	149	55.8%	71.0%
2	東北	9	0	1.6%	0.0%
3	関東	129	37	22.5%	17.6%
4	中部	35	7	6.1%	3.3%
5	近畿	45	14	7.9%	6.7%
6	中国	8	1	1.4%	0.5%
7	四国	3	0	0.5%	0.0%
8	九州	5	1	0.9%	0.5%
9	海外	19	1	3.3%	0.5%
計		573	210	100.0%	100.0%

回答者居住地(道内)		実数		比率	
		H26	H28	H26	H28
1	札幌	172	84	64.7%	41.6%
2	小樽	26	9	9.8%	4.5%
3	室蘭	17	6	6.4%	3.0%
4	苫小牧	16	5	6.0%	2.5%
5	函館	23	10	8.6%	5.0%
6	千歳	5	3	1.9%	1.5%
7	旭川	5	2	1.9%	1.0%
8	江別	2	4	0.8%	2.0%
9	その他	－	79	－	39.1%
計		266	202	100.0%	100.0%

（２）性別・年齢

「女性の回答が男性よりわずかに多い」

回答者の性別は、男性が47.2%、女性が52.8%となっている。年齢は10代、70代以上が比較的少ないが、各年代層バランス良く回答を得ており、前回の調査時と大きな差異はない。



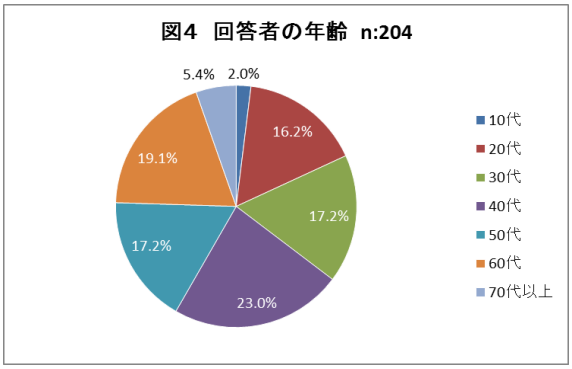


表2　回答者の性別

		実数		比率	
		H26	H28	H26	H28
1	男性	315	91	54.9%	47.2%
2	女性	259	102	45.1%	52.8%
計		574	193	100.0%	100.0%

表3　回答者の年齢

		実数		比率	
		H26	H28	H26	H28
1	10代	8	4	1.4%	2.0%
2	20代	110	33	19.3%	16.2%
3	30代	103	35	18.1%	17.2%
4	40代	117	47	20.6%	23.0%
5	50代	96	35	16.9%	17.2%
6	60代	96	39	16.9%	19.1%
7	70代以上	39	11	6.9%	5.4%
計		569	204	100.0%	100.0%

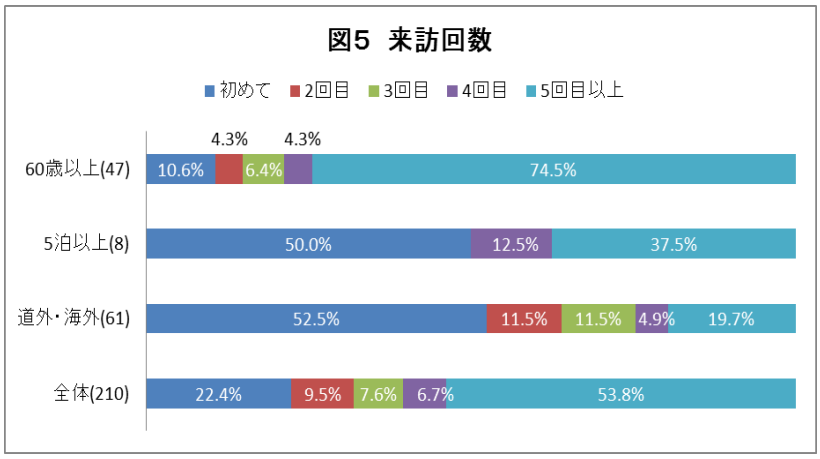
（３）ニセコ地域への来訪回数

「全体で約５割、60歳以上の回答者では約７割が５回目以上の訪問者である」

全体としては、初めてが22.4%、２回目が9.5%、３回目が7.6%、４回目が6.7%、５回目以上が53.8%という内訳になった。道外・海外客（以下、道外客という）については、52.5%が初めての来訪であり、ニセコを初めて訪れる来訪者が多い傾向にある。この傾向は前回の調査と同様であった。また、５泊以上の長期滞在者（以下、長期滞在者という）は、初めての来訪者と４回目以上の訪問者が半々という結果になった。これは前回より初めての来訪者の割合が増加した結果となった。なお、60歳以上のリタイア世代（以下、リタイア世代という）のうち74.5%が5回目以上の訪問であり、３、４回目の訪問者も合わせると８割以上がリピーターであることがわかる。4回目以上の来訪者が5割強を占めていた前回時と比べ、リピーターの割合が増加している傾向がうかがえる。

表4　来訪回数

		実数		比率	
		H26	H28	H26	H28
1	初めて	177	47	31.8%	22.4%
2	2-3回目	134	36	24.1%	17.1%
3	4回目	81	14	14.6%	6.7%
4	5回目以上	164	113	29.5%	53.8%
計		556	210	100.0%	100.0%



（４）同行者

「リタイア世代では夫婦での訪問が半数を占め、全体では家族旅行が多い」

全体では、子ども連れの家族旅行が33.6%、次いで夫婦での訪問が29.9%、友人・知人との訪問が17.5%という結果であった。道外客では子ども連れの家族旅行が40.3%と最も多い割合を占め、次いで夫婦での訪問が29.0%となっている。一方、リタイア世代および長期滞在者では夫婦での訪問が最も多くそれぞれ53.1%、37.5%を占めており、引退後には夫婦で、比較的長期間での観光を楽しむ傾向にあると思われる。全体として前回の調査時と傾向は変わらなかった。

表5　同行者

		実数		比率	
		H26	H28	H26	H28
1	一人旅	30	16	5.2%	7.6%
2	夫婦	160	63	27.9%	29.9%
3	家族旅行（子ども連れ）	150	71	26.1%	33.6%
4	その他の家族（両親・姉妹など）	65	12	11.3%	5.7%
5	友人・知人（カップルを含む）	133	37	23.2%	17.5%
6	その他	36	12	6.3%	5.7%
計		574	211	100.0%	100.0%

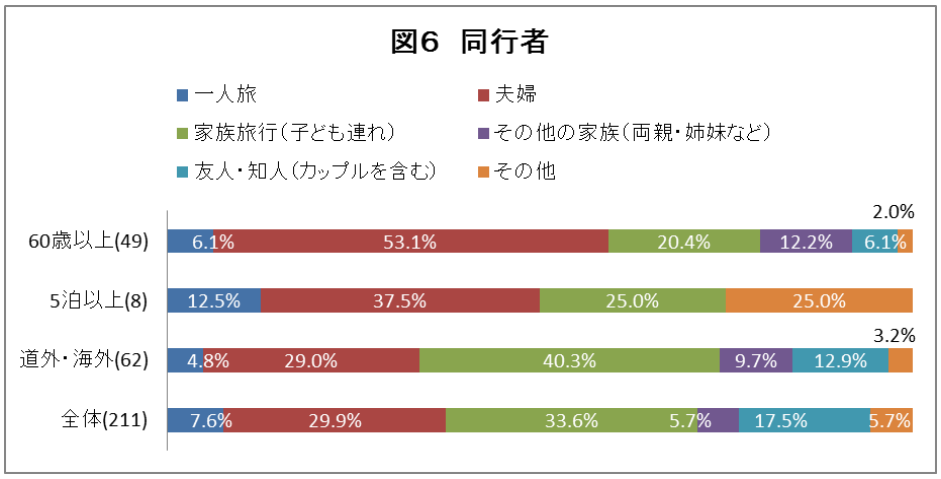


図6　同行者
一人旅
夫婦
家族旅行（子ども連れ）
その他の家族（両親・姉妹など）
友人・知人（カップルを含む）
その他
60歳以上(49)
6.1%
53.1%
20.4%
12.2%
6.1%
2.0%
5泊以上(8)
12.5%
37.5%
25.0%
25.0%
道外・海外(62)
4.8%
29.0%
40.3%
9.7%
12.9%
3.2%
全体(211)
7.6%
29.9%
33.6%
5.7%
17.5%
5.7%

3.2　観光動態

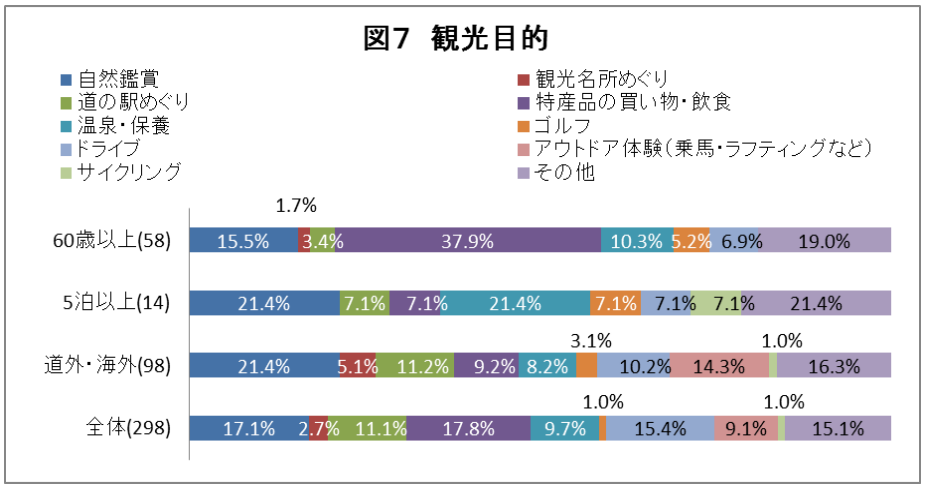
（1）観光目的

「ニセコ観光の目的は多岐にわたるが、主として地域の自然や特色に関連した体験が挙げられる」

全体では、特産品の買い物・飲食が17.8%、自然鑑賞が17.1%、ドライブが15.4%となっている。次いで、道の駅めぐりが11.1%、温泉・保養が9.7%であり、全体として多様な観光目的が見受けられる。リタイア世代では、特産品の買い物・飲食が37.9%、自然鑑賞が15.5%であった。また、道外客に関しては、自然鑑賞が21.4%で、次に他のセグメントには見られないアウトドア体験（乗馬・ラフティングなど）が14.3%と続いたのが特徴である。なお、前回調査時と比較して、温泉・保養の割合が全体的に半減しているが、これは、アンケート回答者が滞在時間（日数）の短い人たちが対象であったことが影響していると考えられる。

表6　観光目的

		実数		比率	
		H26	H28	H26	H28
1	自然鑑賞	244	51	21.3%	17.1%
2	観光名所めぐり	37	8	3.2%	2.7%
3	道の駅めぐり	88	33	7.7%	11.1%
4	特産品の買い物・飲食	198	53	17.2%	17.8%
5	温泉・保養	207	29	18.0%	9.7%
6	ゴルフ	32	3	2.8%	1.0%
7	ドライブ	146	46	12.7%	15.4%
8	アウトドア体験（乗馬・ラフティングなど）	114	27	9.9%	9.1%
9	サイクリング	－	3	－	1.0%
10	その他	82	45	7.1%	15.1%
計		1,148	298	100.0%	100.0%



（２）北海道内の旅行コース

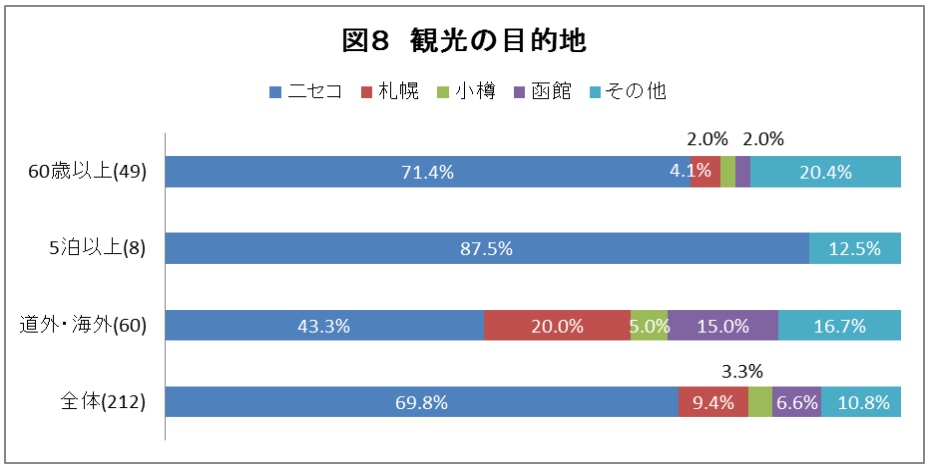
① 観光の目的地

「大半はニセコが北海道観光の主たる目的地であるが、道外客は半数以上がニセコ以外の地域を目的に訪れている」

全体では、ニセコが69.8%、札幌が9.4%、函館が6.6%、小樽が3.3%となった。リタイア世代は７割、長期滞在者では９割近くがニセコを目的地として北海道観光に訪れている。一方で、道外客はニセコを目的地としている割合が43.3%と比較的少なく、札幌が20.0%、函館が15.0%というように他のセグメントよりばらつきが見られた。前回時と比べても、全体の結果としてニセコや小樽を目的地として訪れる人の割合は減り、札幌や函館を目的地としている来訪者の割合が増加した。

表7 観光の目的地

		実数		比率	
		H26	H28	H26	H28
1	ニセコ	406	148	73.2%	69.8%
2	札幌	23	20	4.1%	9.4%
3	小樽	28	7	5.0%	3.3%
4	函館	26	14	4.7%	6.6%
5	その他	72	23	13.0%	10.8%
計		555	212	100.0%	100.0%



② これまでの旅行地

「札幌、小樽経由でのニセコ入りが多い。地域で見ると道央を経由しての来訪者が多く見られる」

全体では、札幌が23.1%、小樽が16.3%、函館が6.1%、また、地域別に見ると道央が

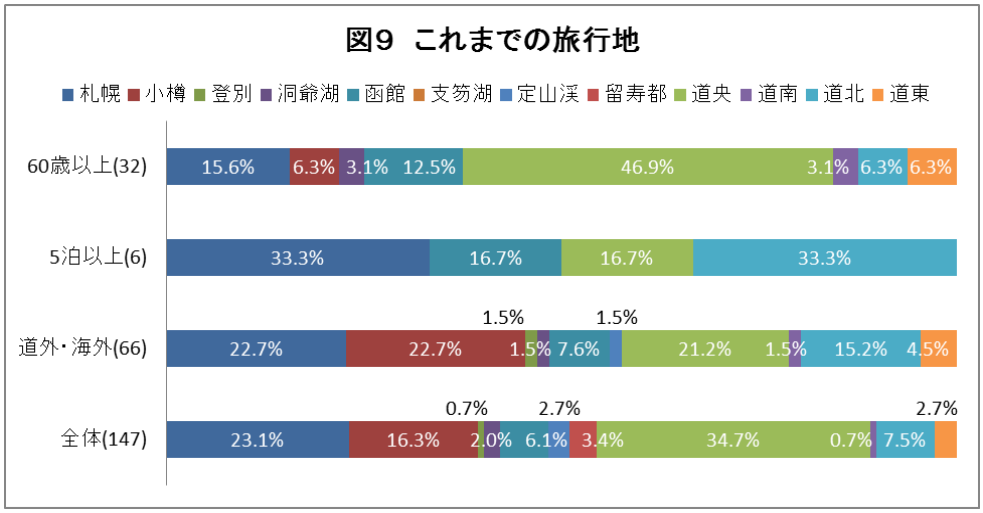
34.7%、道北が7.5%という結果になった。長期滞在者は札幌からが33.3%であり、他のセグメントより多い。また、道外客については札幌と小樽がともに22.7%で、小樽の比率が他セグメントより多くなっている。前回の調査との比較では、質問項目の設定が前回と今回で異なる点があるため単純な比較は出来ない（その他の回答を、道央、道南、道北、道東に区分）。とはいえ、札幌や小樽、道央圏(前回調査時でいう室蘭や他道内が含まれると思われる)を経由している割合が多いことに変わりはない。一方で、今回の調査では、函館からの旅行者の割合が大きく低下している。北海道新幹線開業に伴い、増加すると考えられたが、逆の結果となっている。この点に関しては、調査時間や調査対象（今回は短期滞在の旅行者が多かった）が関係しているとも思われるが、今後の調査で明かにする必要がある。

表8　これまでの旅行地

		実数		比率	
		H26	H28	H26	H28
1	札幌	177	34	41.1%	23.1%
2	小樽	63	24	14.6%	16.3%
3	登別	－	1	－	0.7%
4	洞爺湖	－	3	－	2.0%
5	函館	61	9	14.2%	6.1%
6	支笏湖	－	0	－	0.0%
7	定山渓	－	4	－	2.7%
8	留寿都	－	5	－	3.4%
9	道央	104	51	24.1%	34.7%
10	道南	－	1	－	0.7%
11	道北	26	11	6.0%	7.5%
12	道東	－	4	－	2.7%
計		431	147	100.0%	100.0%

注：道央、道南、道北、道東はその外の回答を地域別で集計

出所：北海道庁



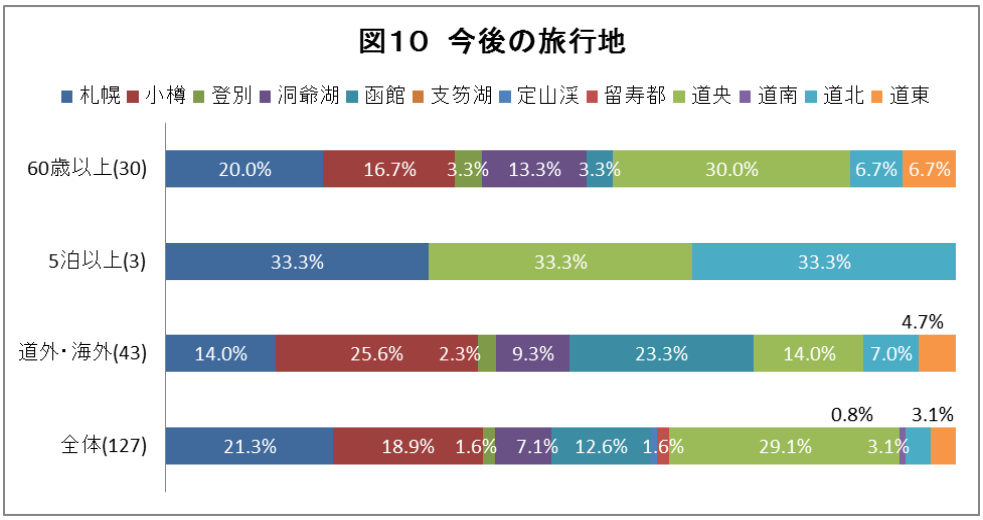
③ 今後の旅行地

「ニセコから札幌や小樽へ向かう観光客が多い。地域別では道央へ向かう割合が高めである」

全体では、札幌が21.3%、小樽が18.9%、函館が12.6%で、地域別では道央が29.1%、道北、道東が3.1%という結果であった。ニセコに訪れるまでの旅行地と同様、全体として札幌と小樽の比率が高い傾向にある。道外客に着目すると、小樽が25.6%、函館が23.3%、札幌が14.0%となっており、小樽、函館両市の人気の高さがうかがえる。前回と比べる際にはやはり質問項目の差が出てくるが、こちらも大きな分析結果の違いは見られなかった。

表9 今後の旅行地

		実数		比率	
		H26	H28	H26	H28
1	札幌	154	27	37.9%	21.3%
2	小樽	68	24	16.7%	18.9%
3	登別	－	2	－	1.6%
4	洞爺湖	－	9	－	7.1%
5	函館	50	16	12.3%	12.6%
6	支笏湖	－	0	－	0.0%
7	定山渓	－	1	－	0.8%
8	留寿都	－	2	－	1.6%
9	道央	128	37	31.5%	29.1%
10	道南	－	1	－	0.8%
11	道北	6	4	1.5%	3.1%
12	道東	－	4	－	3.1%
計		406	127	100.0%	100.0%



（３）交通手段

① ニセコ地域への交通手段

「在来線、新幹線の利用は少なく、自家用車、レンタカーでの移動が多い」

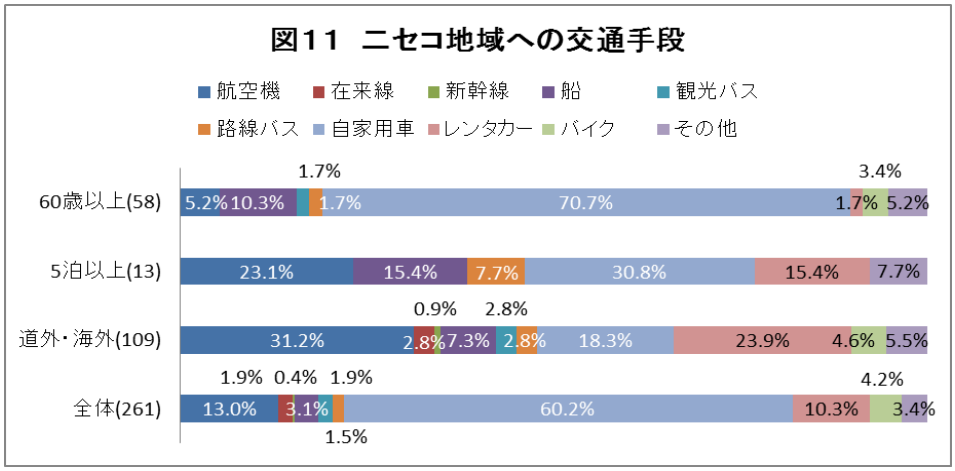
全体では、自家用車が60.2%、航空機が13.0%、レンタカーが10.3%であった。全体およびリタイア世代では７割が自家用車およびレンタカーの利用である。道外客は航空機が31.2%、レンタカーが23.9%、自家用車が18.3%であり、航空機とレンタカーの割合が他のセグメントより多く、これらの需要の高さがうかがえる。長期滞在者については、自家用車が30.8%、航空機が23.1%、船ならびにレンタカーが15.4%となった。なお、長期滞在者の87.5%が道外客である。

また、今回の調査で新たに追加した新幹線の利用は１件であった。

前回と比較すると、今回リタイア世代では７割が道内出身者だったことから航空機の利用の割合が減り、自家用車の割合がより高くなっている。全体では、レンタカー利用の割合が減った分、自家用車の割合が増加した結果となった。

表10 ニセコ地域への交通手段

		実数		比率	
		H26	H28	H26	H28
1	航空機	98	34	13.7%	13.0%
2	在来線	24	5	3.4%	1.9%
3	新幹線	－	1	－	0.4%
4	船	22	8	3.1%	3.1%
5	観光バス	23	5	3.2%	1.9%
6	路線バス		4		1.5%
7	自家用車	357	157	50.0%	60.2%
8	レンタカー	145	27	20.3%	10.3%
9	バイク	30	11	4.2%	4.2%
10	その他	15	9	2.1%	3.4%
計		714	261	100.0%	100.0%



② ニセコ地域からの交通手段

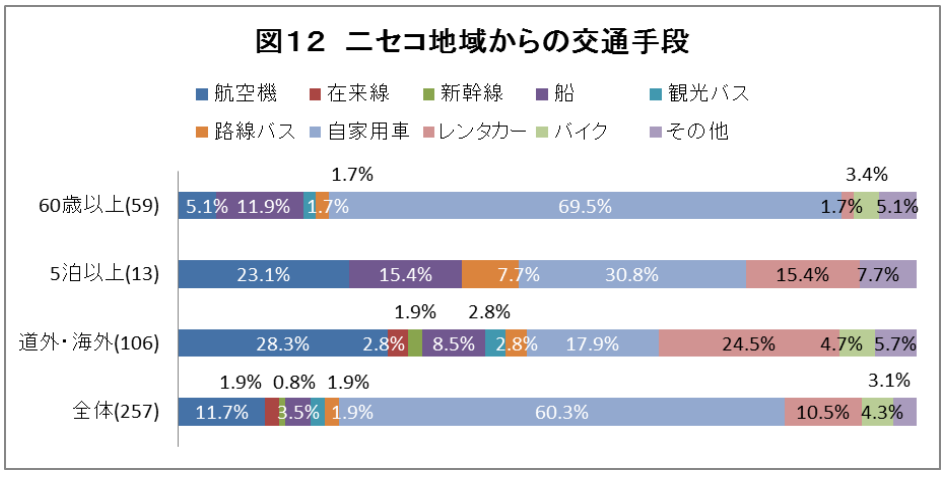
「ニセコ地域への移動同様、自家用車、レンタカーの利用が主である」

全体では、自家用車が60.3%、航空機が11.7%、レンタカーが10.5%となった。ニセコ地域への移動時と回答の傾向にほぼ大差はないが、道外客において、在来線および新幹線の利用が見受けられるのが特徴といえる。

また、新幹線の利用者については、ニセコと函館間の移動時にレンタカー、ＪＲを利用していた。

表11 ニセコ地域からの交通手段

		実数		比率	
		H26	H28	H26	H28
1	航空機		30		11.7%
2	在来線		5		1.9%
3	新幹線		2		0.8%
4	船		9		3.5%
5	観光バス		5		1.9%
6	路線バス		5		1.9%
7	自家用車		155		60.3%
8	レンタカー		27		10.5%
9	バイク		11		4.3%
10	その他		8		3.1%
計			257		100.0%



【本州から新幹線を函館まで利用したと回答したサンプルの行程パターン】

※本州からニセコ地域へ、ニセコ地域から本州へ両方で新幹線利用、函館ニセコ間ではＪＲとレンタカー利用

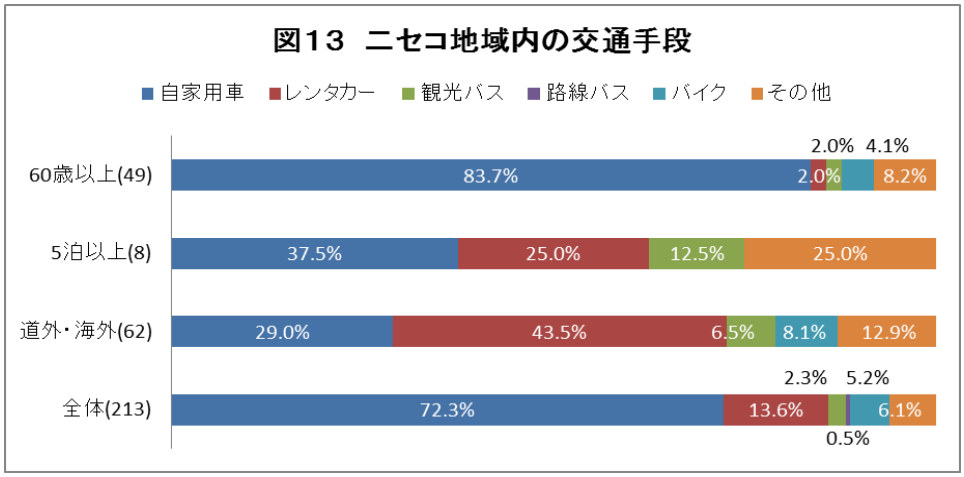
③ ニセコ地域内の交通手段

「自家用車、レンタカーの利用が大半を占める」

全体では、自家用車が72.3%、レンタカーが13.6%、バイクが5.2%となった。リタイア世代、長期滞在者では自家用車、道外客ではレンタカーの利用が多い。観光バスの利用率は低く、特に路線バスの回答は１件のみであった。その他の交通手段は、例として自転車、ホテルの送迎バス等があがった。前回の調査結果と大きな差は見られない。

表12 ニセコ地域内の交通手段

		実数		比率	
		H26	H28	H26	H28
1	自家用車	346	154	61.5%	72.3%
2	レンタカー	151	29	26.8%	13.6%
3	観光バス	17	5	3.0%	2.3%
4	路線バス		1		0.5%
5	バイク	29	11	5.2%	5.2%
6	その他	20	13	3.6%	6.1%
計		563	213	100.0%	100.0%



（４）情報収集

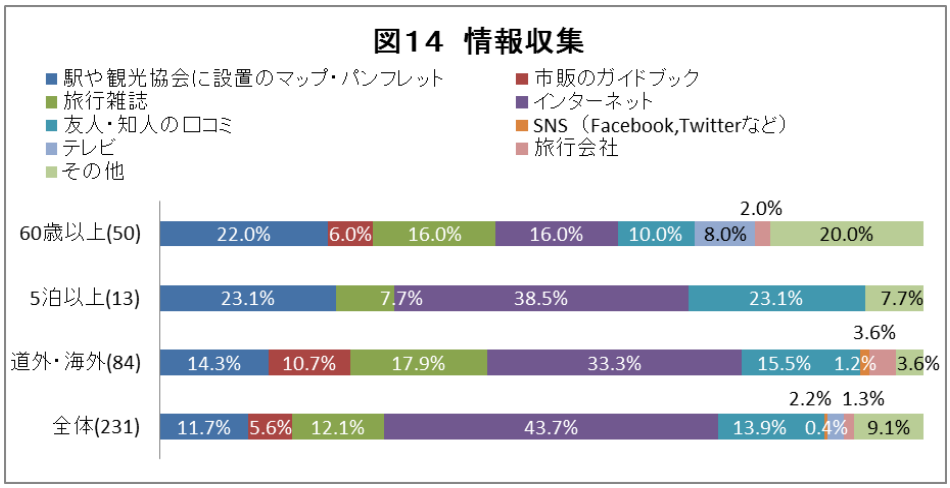
「全体ではインターネットによる情報収集が多いが、口コミや紙媒体での収集も積極的になされている」

全体では、インターネットが43.7%、友人・知人の口コミ13.9%、旅行雑誌12.1%であった。リタイア世代では、駅や観光協会に設置のマップ・パンフレットが最も多く、22.0%、旅行雑誌とインターネットが16.0%となっている。また、リタイア世代では他のセグメントに見られなかったテレビが8.0%を占めているのも特徴的である。道外客では、市販のガイドブックが10.7%、旅行会社が3.6%と、他より比較的高い割合の項目が見られた。前回と比較すると、全体的に市販のガイドブックを利用する人々の割合

が下がり、インターネットの利用者の割合が増加した印象である。

表13 情報収集

		実数		比率	
		H26	H28	H26	H28
1	駅や観光協会に設置のマップ・パンフレット	127	27	15.1%	11.7%
2	市販のガイドブック	95	13	11.3%	5.6%
3	旅行雑誌	125	28	14.8%	12.1%
4	インターネット	284	101	33.7%	43.7%
5	友人・知人の口コミ	105	32	12.5%	13.9%
6	SNS（Facebook,Twitterなど）	18	1	2.1%	0.4%
7	テレビ	12	5	1.4%	2.2%
8	旅行会社	29	3	3.4%	1.3%
9	その他	47	21	5.6%	9.1%
計		842	231	100.0%	100.0%



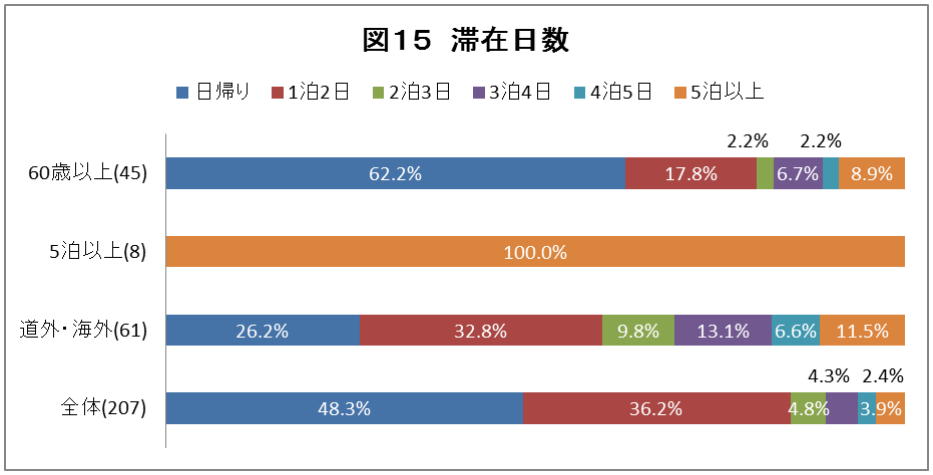
（５）滞在日数

「日帰り、１泊２日での訪問が大半。道外客は２泊以上の割合が多くなる」

全体では、日帰り48.3%、１泊２日36.2%、２泊３日が4.8%であった。リタイア世代は、日帰り62.2%、１泊２日17.8%、５泊以上が8.9%という結果だった。一方、道外客は１泊２日が32.8%、日帰りが26.2%、３泊４日が13.1%で、２泊以上の割合が４割を占めており比較的長期の滞在であることがわかった。前回と比べると、リタイア世代の日帰りの割合が高くなっており、全体の傾向としても、回答者が道内（札幌近郊）の割合が多く、やや短期間の滞在傾向となった。

表14　滞在日数

		実数		比率	
		H26	H28	H26	H28
1	日帰り	248	100	43.0%	48.3%
2	1泊2日	204	75	35.4%	36.2%
3	2泊3日	51	10	8.8%	4.8%
4	3泊4日	17	9	2.9%	4.3%
5	4泊5日	5	5	0.9%	2.4%
6	5泊以上	52	8	9.0%	3.9%
計		577	207	100.0%	100.0%



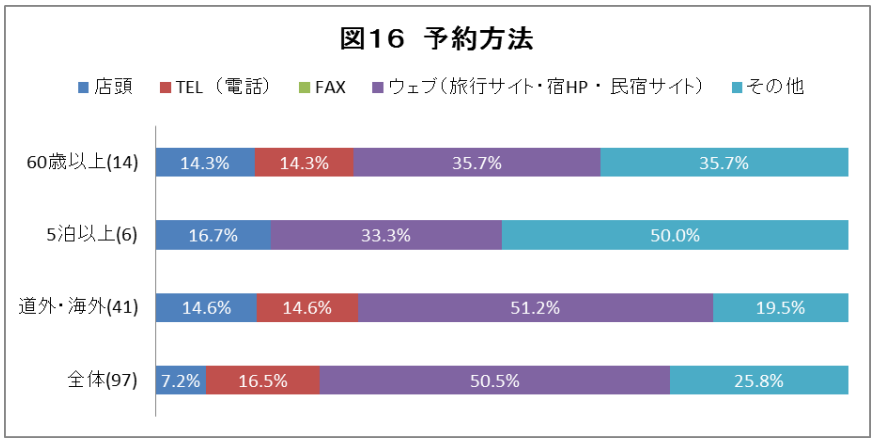
（６）宿泊先の予約方法

「ウェブでの予約が多いが、滞在方法には多様性が見受けられた」

全体では、ウェブ(旅行サイト・宿ＨＰ・民宿サイト)が50.5%、その他が25.8%、ＴＥＬ(電話)が16.5%となった。セグメント別に見てもこの傾向は変わらず、その他の占める割合が多いのが特徴である。その他については、車中泊、知人宅への宿泊といった、宿泊先の予約を必要としない滞在方法でニセコを訪れる来訪者の自由回答が得られた。

表15　予約方法

	項目	実数	比率
1	店頭	7	7.2%
2	TEL(電話)	16	16.5%
3	FAX	0	0.0%
4	ウェブ(旅行サイト・宿HP・民宿サイト)	49	50.5%
5	その他	25	25.8%
計		97	100.0%



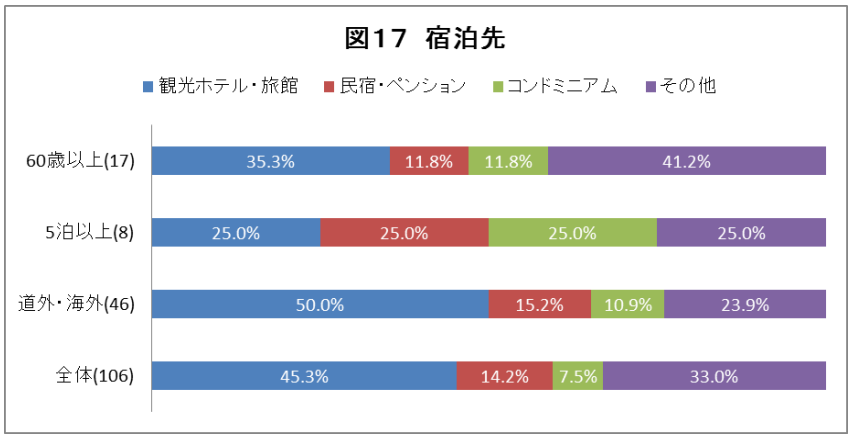
（７）宿泊先

「観光ホテル・旅館が多いが、その他の宿泊先はさまざまである」

全体では、観光ホテル・旅館45.3%、その他33.0%、民宿・ペンション14.2%となった。観光ホテル・旅館が主だが、宿泊先の予約方法同様、車中泊や親戚・知人宅での宿泊といったその他の項目の割合が多くなっている。そのほか、コテージやキャンプ場での滞在も散見された。前回と比べると、民宿・ペンションの割合が増加した一方、コンドミニアムの割合は半減した。これは今回の調査地点にコンドミニアムが入っていないことによる。なお、観光ホテル・旅館の割合も全体的に減少しているがこれは同施設での据え置き調査を実施していないことによる。

表16 宿泊先

		実数		比率	
		H26	H28	H26	H28
1	観光ホテル・旅館	208	48	59.1%	45.3%
2	民宿・ペンション	33	15	9.4%	14.2%
3	コンドミニアム	49	8	13.9%	7.5%
4	その他	62	35	17.6%	33.0%
計		352	106	100.0%	100.0%



（８）観光消費額

「平均観光予算額は、19,242円である」

全体では、5,000円未満37.9%、5,000円以上１万円未満22.1%、３万円以上が16.4%であった。リタイア世代では5,000円未満43.5%、5,000円以上１万円未満が32.6%、３万円以上が13.0%となり、１万円未満が76.1%を占める比較的低めの結果となった。長期滞在者は３万円以上が83.3%であり、旅行期間と比例して消費額が多くなっている。道外客では、３万円以上37.7%、5,000円以上１万円未満20.8%、5,000円未満が15.1%（１万円未満は35.9%）であり、消費額が比較的多いことがわかる。前回との差でもっとも顕著なのは、リタイア世代のニセコ滞在期間の短さに合わせて観光消費額も少なくなった点である。これにより全体の消費額の割合がやや下がってはいるものの、その他のセグメントの各金額の割合等は前回調査と大差ない結果となった。

平均観光予算額は、19,242円である。

表17 観光消費額

		実数		比率	
		H26	H28	H26	H28
1	5,000円未満	179	74	31.5%	37.9%
2	5,000円以上1万円未満	112	43	19.7%	22.1%
3	1万円以上1万5千円未満	71	17	12.5%	8.7%
4	1万5千円以上2万円未満	55	10	9.7%	5.1%
5	2万円以上2万5千円未満	33	17	5.8%	8.7%
6	2万5千円以上3万円未満	33	2	5.8%	1.0%
7	3万円以上	86	32	15.1%	16.4%
計		569	195	100.0%	100.0%

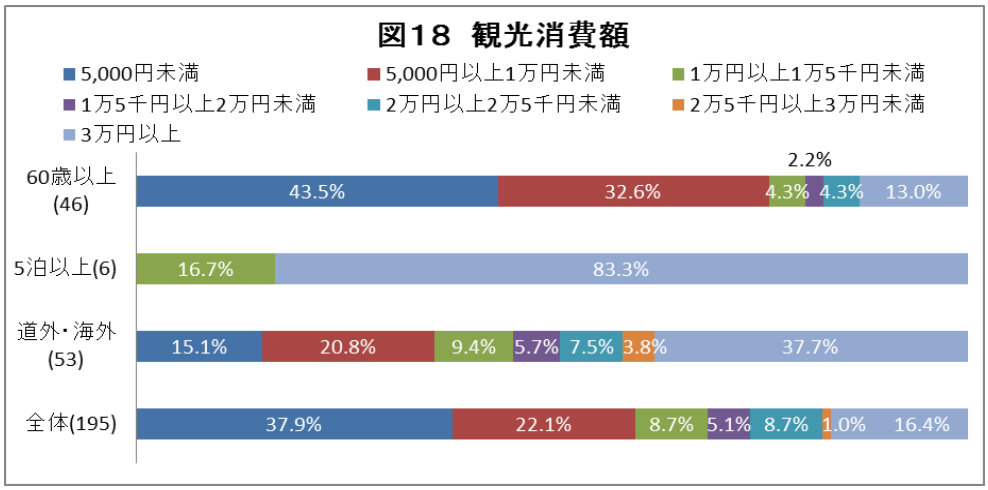


図18 観光消費額
5,000円未満
5,000円以上1万円未満
1万円以上1万5千円未満
1万5千円以上2万円未満
2万円以上2万5千円未満
2万5千円以上3万円未満
3万円以上
60歳以上(46)
43.5%
32.6%
4.3%
2.2%
4.3%
13.0%
5泊以上(6)
16.7%
83.3%
道外・海外(53)
15.1%
20.8%
9.4%
5.7%
7.5%
3.8%
37.7%
全体(195)
37.9%
22.1%
8.7%
5.1%
8.7%
1.0%
16.4%

4 ヒアリング調査

今回のアンケート調査では、北海道新幹線の開業に伴い、利用者のニーズを把握、今後の札幌への延伸に活かすため、ヒアリング調査を合わせて実施した。以下に集計結果を示す。

4.1 北海道新幹線開業に関わるニーズ

【問い】新函館北斗までの延伸についての感想や意見

・東北に行くことがあったら利用したい、東北へ行くのが便利になった
・札幌まで来ないと不便で乗らない、あまり経済効果を感じていない
・利便性や時間・金額の点から飛行機(新千歳空港)の方が良い、楽である
・新函館、木古内に行ったが、なぜここに作ったのかと思った
・地元なので期待していたが駅周辺の地域が発展していないので微妙(函館)
・駅の周辺に面白い観光地、お店等があれば利用を考えたい
・駅にお土産を買うような所があるとよい
・函館市内から新函館駅までが遠い、わかりにくいため利用しづらい(函館)
・北海道－東京間で利用しようと思ったがツアーがなかった(東京)
・今回利用を検討したが函館からニセコまでの交通手段が見つからなかった(神奈川)
・乗りたかったが、所要時間５～６時間は長い(東京)
・東京からしか乗れないため、乗る予定がない(奈良)
・ダイヤ改正で不便になったので、在来線をしっかり残してほしい(蘭越)
・室蘭－札幌間をよく使うが新幹線の影響で時間帯が変わり逆に不便になった(室蘭)
・室蘭から長万部までの交通機関を充実させてほしい(室蘭)
・観光列車などがあると良い(江別)
・駅の数を増やしてほしい(札幌)
・日高線など、生活しているところの線路を充実させるべきである(小樽)

【問い】札幌延伸についての感想や意見

・(値段次第で)利用したい、安くしてほしい
・大歓迎、すごく便利になる
・新幹線車内でイベントがあれば利用するかもしれない
・東北に行くときであれば利用したい
・本州の方まで乗ってみたい、本州が身近になる感覚が湧きそう
・函館－青森間があれば良い
・それなりに便利になりそうだが利用者がどれほどいるのか疑問
・時間がかかるため、時間に余裕があるときに利用したい
・ニセコへのスキー利用時、空港からの移動時間を考えると差がないと思う(千葉)
・東京で乗り換える必要があり、値段も高く、使うことはなさそう(大阪)
・飛行機の方が便利だと思う、まだ魅力を感じない
・札幌までの延伸に時間がかかりすぎる、早く延伸してほしい
・トンネルが多くて景色が見えないという課題があると思う
・車で行っていた中長距離の移動が楽になる
・車を運転できる歳でなくなったら利用するかもしれない
・函館が素通り、置き去りにされてしまうのではないかと心配になる(函館)
・延ばすことはいいが、在来線をしっかり残してほしい(蘭越)
・料金が高いので新幹線は反対(札幌)
・駅の場所が心配(混むと面倒なので職場の近くはいやだ)(札幌)
・ホームの問題を早く決定するべき(札幌)
・第三セクターの運営含め、うまくやってほしい(札幌)
・札幌－函館間なら使うが、本州へは飛行機を利用する(小樽)
・旭川市民からするとあまり関係ない(旭川)

5 まとめ

5.1 ニセコ地域の観光動態について

今回の調査では前回と比べ北海道内の観光客比率が増加した。北海道内の観光客の動態については前回調査と大きな違いはなかった。一方で、北海道外の観光客については、ニセコを目的地とせず、札幌、小樽、函館などの観光地を目的とし、その移動途中にニセコに立ち寄っている行動パターンが確認できた。

5.2 予約方法、宿泊先の多様化

宿泊に関する予約方法についてウェブ(旅行サイト・宿ＨＰ・民宿サイト)の回答が半数を占めたが、その他の回答も多く、内訳をみると、車中泊や親戚・知人宅での宿泊、コテージやキャンプ場での宿泊といった回答もあり、夏季のニセコにおいて宿泊先が多様化していることがわかった。

5.3 北海道新幹線開業の影響について

今回の調査では、北海道新幹線開業に伴う影響を測定するため新規に調査項目を設定したが、北海道新幹線を利用してニセコへ移動した回答は１サンプルであった。その行程をみると、ニセコ地域から新幹線利用、函館まではレンタカー利用であった。函館（新幹線駅）からニセコ地域までの公共交通機関整備が完全でないことが要因とも考えられるが、全員を対象とし北海道新幹線開業に伴うコメントでは「今回利用を検討したが函館からニセコまでの交通手段が見つからなかった(神奈川)」との回答もあり、函館～ニセコへの公共交通機関情報が周知されておらず、利用に繋がっていないということが想定される。また、北海道内の観光客からは、北海道新幹線開業に伴い「ダイヤ改正で不便になったので、在来線をしっかり残してほしい(蘭越)」「室蘭－札幌間をよく使うが新幹線の影響で時間帯が変わり逆に不便になった(室蘭)」など、在来線の利便性が低下したとのコメントもあった。また、札幌延伸に関するコメントは、肯定的なものが多い一方で、「在来線の利便性低下」「素通りされる地域の衰退」などのコメントが見受けられた。

6 参考資料

アンケート調査票

管理番号

ニセコ地域観光動態アンケート調査

ニセコ地域における観光実態を把握するため、アンケート調査を実施しています。ご協力をお願いいたします。
ニセコ町、倶知安町、小樽商科大学

問1 今回の北海道観光で一番の目的地はどちらですか。(1つだけ○)
1. ニセコ 2. 札幌 3. 小樽 4. 函館 5. その他(　　)

問2 ニセコ地域の主な観光目的は，何ですか。(主なもの3つまで)
1. 自然鑑賞 2. 観光名所めぐり 3. 道の駅めぐり 4. 特産品の買い物・飲食 5. 温泉・保養 6. ゴルフ
7. ドライブ 8. アウトドア体験(乗馬・ラフティングなど) 9. サイクリング 10. その他(　　)

問3 ニセコ地域への観光は今回が何回目になりますか。
1. 初めて 2. 2回目 3. 3回目 4. 4回目 5. 5回目以上 → (およそ　　回目)

問4 今回の観光はどなたと一緒に来られました。(1つだけ○)
1. 1人旅 2. 夫婦 3. 家族旅行(子ども連れ) 4. その他家族(両親・姉妹など)
5. 友人・知人(カップルを含む) 6. その他(　　)
※ 1，2以外の回答者について，あなたを含めた同行者の人数を教えてください → (　　)人

問5 ニセコ地域にはどのような交通手段でいらっしゃいましたか。(主なもの3つまで)
1. 航空機 2. 在来線 3. 新幹線 4. 船 5. 観光バス 6. 路線バス
7. 自家用車 8. レンタカー 9. バイク 10. その他(　　)

自宅	→	ニセコ

問6 ニセコ地域からはどのような交通手段でお帰りですか。(主なもの3つまで)
1. 航空機 2. 在来線 3. 新幹線 4. 船 5. 観光バス 6. 路線バス
7. 自家用車 8. レンタカー 9. バイク 10. その他(　　)

ニセコ	→	自宅

問7 ニセコ地域内での主な移動手段は何ですか。(1つだけ○)
1. 自家用車 2. レンタカー 3. 観光バス 4. 路線バス 5. バイク 6. その他(　　)

問8 ニセコの観光の情報はどのように収集されましたか。(主なもの3つまで)
1. 駅や観光協会に設置のマップ・パンフレット 2. 市販のガイドブック 3. 旅行雑誌 4. インターネット
5. 友人・知人の口コミ 6. SNS(Facebook, Twitterなど) 7. テレビ 8. 旅行会社 9. その他(　　)

問9 ニセコ地域内で宿泊しましたか。(予定を含む)(1つだけ○)
1. 日帰り(　　時間) 2. 1泊2日 3. 2泊3日 4. 3泊4日 5. 4泊5日 6. 5泊以上(　　泊)

問10 宿泊された方(予定を含む)にお尋ねします。宿泊はどのような方法で予約しましたか。(1つだけ○)
1. 店頭 2. TEL(電話) 3. FAX 4. ウェブ(旅行サイト・宿HP・民泊サイト) 5. その他(　　)

問11 宿泊された方(予定を含む)にお尋ねします。宿泊先はどのようなところですか。(1つだけ○)
1. 観光ホテル・旅館 2. 民宿・ペンション 3. コンドミニアム 4. その他(　　)

問12 今回のニセコ地域内での観光予算は，お一人あたりどの位になりますか。(予定を含む)(1つだけ○)

宿泊費	円	予算総額(or団体・ツアーのパック料金) 円
土産品	円	
飲食費	円	
市内での交通費	円	
その他(入館料，体験料など)	円	

問13 今回の北海道内およびニセコ地域内の旅行ルートについてお聞かせください。

[これまでの旅行地]
地域・施設名
→ ニセコ →
[今後の旅行地]
地域・施設名
↓
[ニセコ地域内での観光ルート]
➡ 現在地 ➡

問14 性別と年齢と住所をお聞かせ下さい。

性別	1. 男性 2. 女性
年齢	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代以上
住所	都道府県: 道内・道外(　　) 市町村:

調査日: 8 ／ 27 ・ 28　　調査場所: 道の駅 ・ 高橋牧場 ・ ひらふ周辺　　担当者名:

管理番号

ニセコ地域観光動態アンケート調査　追加項目

★北海道新幹線の延伸についてお聞きします。

1．今年3月に新函館北斗まで延伸したことについて，何かご意見や感想などございますか。

2．2030年度末に札幌まで延伸予定とのことですが，何か期待や要望などございますか。

※　問5もしくは問6で，「新幹線」を選んだ方にお伺いいたします。函館から（まで）どのような交通手段を利用しましたか。

1．観光バス　2．路線バス　3．JR　4．レンタカー　5．その他（　　）

【調査等ご協力者】

■連携機関

・倶知安町経済部商工観光課
・ニセコ町商工観光課

■プロジェクトメンバー

・プラート　カロラス（小樽商科大学商学部 教授）
・李　濟民（小樽商科大学グローカル戦略推進センター産学官連携推進部門長）
・後藤　英之（小樽商科大学グローカル戦略推進センター産学官連携推進部門 准教授）
・宮﨑　義久（仙台高等専門学校 助教）

【本報告書に関する問い合わせ先】

小樽商科大学　グローカル戦略推進センター

産学官連携推進部門

後藤

Tel:0134-27-5290

Mail:h-gotoh@res.otaru-uc.ac.jp

無断転載・複製を禁ず